

中小企業経営者の実態

BLUE REPORT

FOR SOCIAL VALUE

中小企業のESGへの対応

～ESG経営の課題、効果、事業・社外への影響～

2024

12

2024年11月29日 フォーバル GDXリサーチ研究所 編集

GDX
GDXリサーチ研究所

サマリー・レポート概要

ESG経営の取り組みで
プラスの影響を感じている企業は **69.2%**

※「とても感じている」と「やや感じている」を選択した企業

約**3割**～**4割**の企業がESG経営の効果を実感

※ 項目により効果の割合は異なる

70.7%の企業が
ESG経営に取り組んでいる企業と取引をしたいと回答

本レポートの調査結果をご利用いただく際は、
必ず【フォーバル GDXリサーチ研究所調べ】とご明記ください。

■ レポート概要

- ・ 調査主体：フォーバル GDXリサーチ研究所
- ・ 調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日
- ・ 調査対象者：全国の中小企業経営者
- ・ 調査方法：ウェブでのアンケートを実施し、回答を分析
- ・ 有効回答数：1077人

中小企業のESGへの対応

Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス/企業統治）の各分野に配慮した経営を行うことを意味するESG経営は、持続可能な経営の実現や企業の社会的責任を果たすための指標として注目されています。当初は投資家による企業評価の判断材料として活用されていたものが、昨今はその認知度の上昇、また大手企業を中心にESG情報の開示が進んでいることから、中小企業や消費者の間でも関心が広がってきています。

しかしながら、中小企業におけるESG経営への取り組みは、必ずしも進んでいるとは言えない現状があります。前号（For Social Value ブルーレポート 2024年11月号）でESG経営の取り組み状況を調査したところ、4割に満たない結果でした。

ESG経営に取り組むことで、環境配慮型経営の推進や働きやすい職場づくり、組織体制の強化などが期待でき、それが持続可能な経営の実現に資するといわれています。また、ESG経営は大企業のみならず、中小企業にもメリットをもたらします。それが中小企業において拡大しない背景には、どのような問題・課題があるのでしょうか。また、中小企業がESG経営に取り組むことで得られる効果には、どのようなものがあるのでしょうか。

本レポートでは、前号に引き続きESG経営を取り上げ、取り組むうえでの課題や取り組むことによる事業への影響、効果などについて、調査結果を基に検証を行いました。

■ 目次

1. ESG経営に取り組むうえでの課題	4
2. ESG経営の事業への影響、取り組み効果	7
2-1. ESG経営の事業への影響	8
2-2. ESG経営の取り組み効果	9
3. ESG経営がもたらす社外への影響	11
4. まとめ・あとがき	13

1. ESG経営に 取り組むうえでの課題

1. ESG経営に取り組むうえでの課題

第1章では、ESG経営に取り組んでいる企業が Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス/企業統治）それぞれ

の分野においてどのような課題を抱えているのか、についての調査結果を報告する。

本レポートは「For Social Value ブルーレポート 2024年11月号」の続編となっている。前号の「ESG経営の取り組み状況」の設問において「取り組んでいる」と回答した117社に対し、取り組むうえでの課題を聞いた。

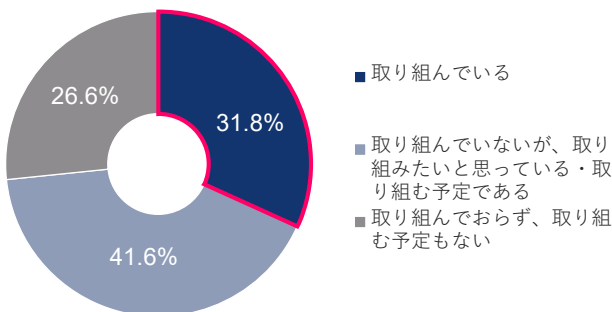
まず、Environment（環境）の課題については、「CO2排出量の把握ができないこと」が最も多く、全体の34.6%を占めた。続いて「ペーパーレスが実現できていないこと」が28.0%、次に「電気使用量CO2の削減方法が分からないこと」、「導入コストが高いこと」と続いた。

環境問題に取り組むうえでの基本として、自社のCO2排出に関する現状を正確に把握すること、身近なペーパーレス、紙の削減を進めることが挙げられる。ただ、ここが課題となっている企業が多いことから、まだ取り組みの初期段階で試行錯誤をしている企業が多いことが見てとれる。また、「ペーパーレスが実現できていない」と回答した企業は、デジタル化への取り組みが進まず、デジタルトランスフォーメーションの遅れにも繋がっている可能性がある。

※ For Social Value ブルーレポート 2024年11月号
https://gdx-research.com/wp-content/uploads/2024/10/bluereport_202411.pdf

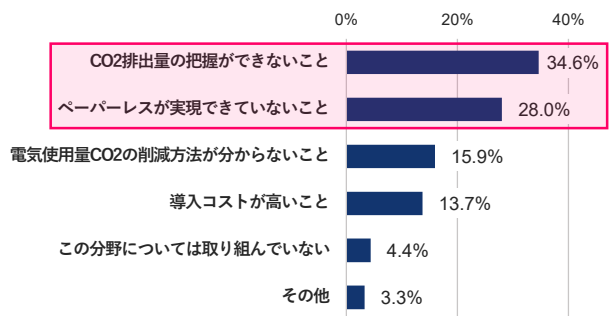
再掲

■ ESG経営の取り組み状況 (n=368)



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ 「Environment（環境）」の分野の課題 (n=117) ※複数回答可



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

1. ESG経営に取り組むうえでの課題

続いて、Social（社会）、Governance（ガバナンス/企業統治）の課題を紹介する。

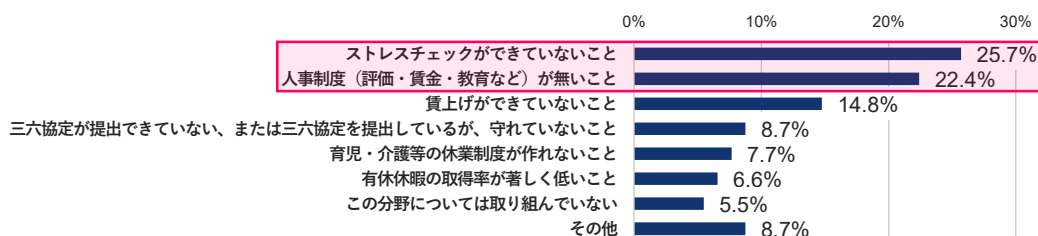
Social（社会）の課題については、「ストレスチェックができていないこと」（29.9%）、「人事制度（評価・賃金・教育など）が無いこと」（26.1%）、「賃上げができていないこと」（17.2%）と続いた。

最も多いストレスチェックに関しては、常時50人以上の労働者を使用する事業場においては、2015年12月から年に1回以上の実施が義務化されている。本設問に回答した企業の従業員規模のほとんどが50人未満だが、50人以上の企業も存在する。実施できていない当該企業は早急に実施体制を整える必要がある。2つ目の人事制度（評価・賃金・教育など）についても、従業員のモチベーションに影響してしまう可能性があるため、実施していない企業には取り組んでほしい。

そして、Governance（ガバナンス/企業統治）については、「内部通報制度などの社内体制が構築できていないこと」が24.7%で最も高く、次いで「顧客管理、サービスの品質管理等ができていないこと」で23.3%の回答で、Social（社会）と同様社内体制関連の課題が目立った。また、本設問については「この分野については取り組んでいない」の回答の割合が3つの分野のなかで最も多く、取り組みが進んでいない状況も見てとれた。

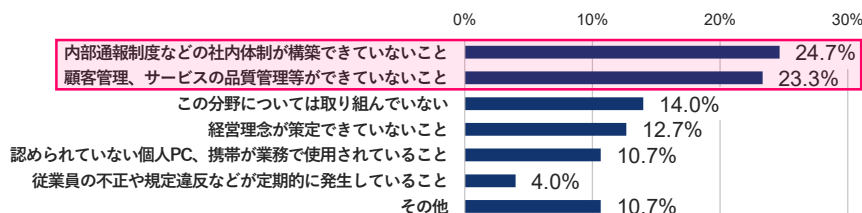
最後に、SとGのどちらにおいても「その他」については、「順調に取り組んでいる」、「課題と感じたことはない」という回答が多く、特に課題を感じずに取り組んでいる企業も一定数見られた。

■ 「Social（社会）」の分野の課題（n=117）



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ 「Governance（ガバナンス/企業統治）」の分野の課題（n=117）



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日 6

2. ESG経営の 事業への影響、取り組み効果

2. ESG経営の事業への影響、取り組み効果

第2章では、ESG経営に取り組んでいる企業の事業への影響、そして、取り組んだうえでの効果に

ついて報告する。取り組んでいる企業では、事業に対してどのような影響、効果があるのだろうか。

2-1. ESG経営の事業への影響

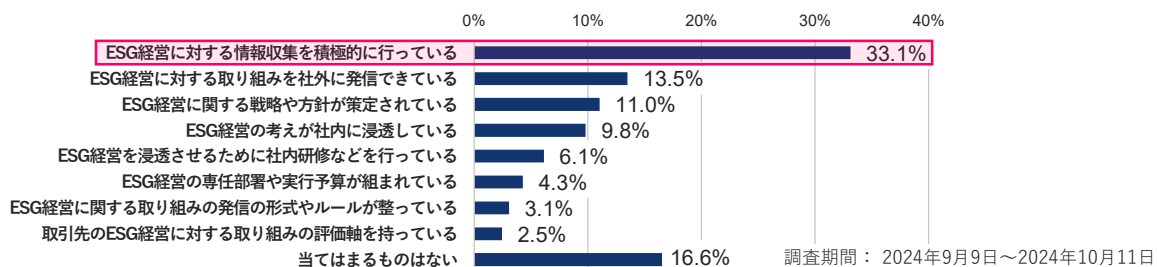
まず、ESG経営に取り組んでいる企業のその具体的な内容については、「ESG経営に対する情報収集を積極的に行っている」と回答した企業が最も多く、「ESG経営に対する取り組みを社外に発信できている」や「ESG経営に関する戦略や方針が策定されている」になると、回答数が下がる。ESG経営に取り組んではいるが、情報収集がメインという企業が多かった。

次に、残りの2つの調査結果を合わせて見てみたい。「ESG経営へ取り組むことでプラスの影響を感じているか」については、「とても感じている」と「やや感じている」を合わせた約7割の企業がプラスの影響を感じていた。ただ、「ESG経営への

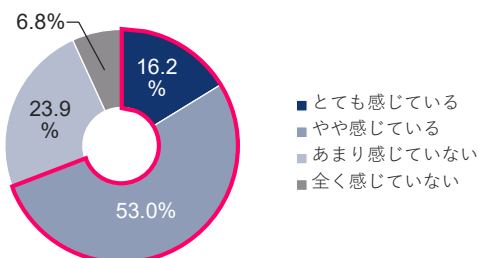
取り組みを営業活動に活用できているか」については、「とても活用できている」、「やや活用できている」を合わせ、活用できている企業は約3割まで少なくなる。

ESG経営に取り組むことが経営、事業活動全体においてプラスの影響を感じている企業は多い。ただ、その一方でそれを強みとして活かすことができていない企業も多い状況であった。企業経営においてこれからの世の中が求める新たな取り組みをいち早く進めることが企業の差別化、強みにつながることも多くある。ESG経営に取り組んでいる企業はぜひ、営業活動を始めとする事業活動に活かしていただきたい。

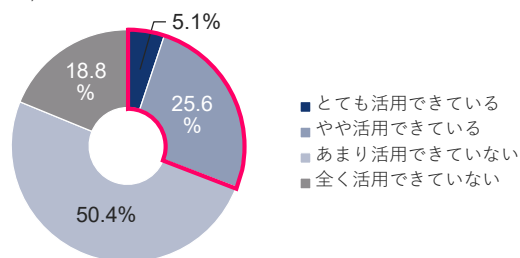
■ ESG経営の取り組み状況 (n=117)



■ ESG経営へ取り組むことでプラスの影響を感じているか (n=117)



■ ESG経営への取り組みを営業活動に活用できているか (n=117)



2. ESG経営の事業への影響、取り組み効果

2-2. ESG経営の取り組み効果

ESG経営に取り組んだ効果を本ページ、次ページの2ページで報告する。効果については、「業績」、「競合優位性」、「採用活動」、「社内の労働環境」、「周囲からの評判」、「取引先からの評判」、「求職者からの評判」の7つの項目で調査をした。

本ページでは「業績」についての結果を掲載している。「とてもプラスの変化があった」、「ややプラスの変化があった」を合わせ39.3%、約4割の企業が効果を実感していた。最も回答が多かったのは「特に変化はなかった」であり、ESG経営に取り組んでいるものの業績に変化が出ていない企業が数としては最も多い。

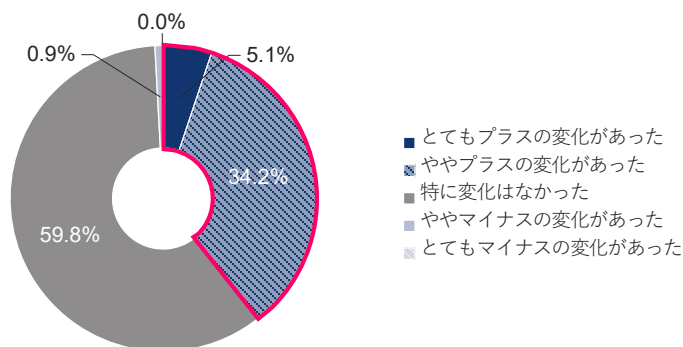
次ページに掲載している残り6つの項目についても概ね同様の傾向がであった。そのなかでも、「社内の労働環境」に関しては最も多い、45%を超える企業が効果を実感していた。ESG経営、

特にSocial（社会）、Governance（ガバナンス/企業統治）については、身近な従業員や組織の体制整備に関連するものが多い。そのため、「社内の労働環境」における効果を実感しやすいのかもしれない。

逆に、「採用活動」、「求職者からの評判」といった採用に関連する項目では、効果が30%を下回る低い結果であった。前ページの取り組み状況でも「ESG経営に対する取り組みを社外に発信できている」を選択した企業は多くなかったため、それが影響している可能性も考えられる。

ESG経営に限らず、取り組みをしても、それを発信しないことには外部への周知は難しい。採用関連で効果を実感していない企業は情報発信を強化し、取り組みを外部に伝えることに力を注いでみてはいかがだろうか。

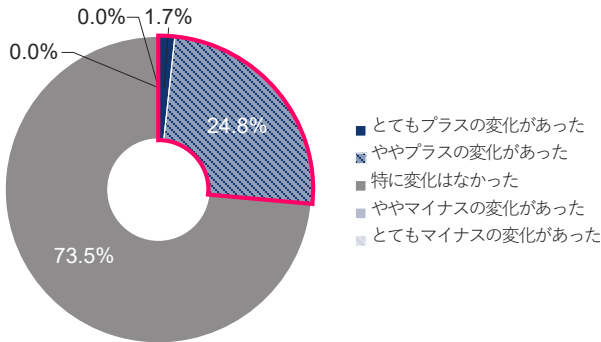
■ ESG経営の効果：業績（n=117）



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

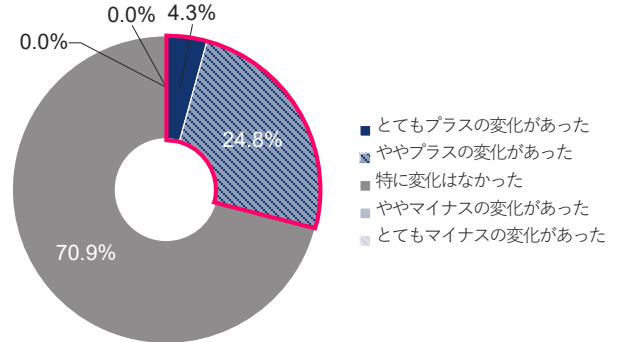
2. ESG経営の事業への影響、取り組み効果

■ ESG経営の効果:競合優位性 (n=117)



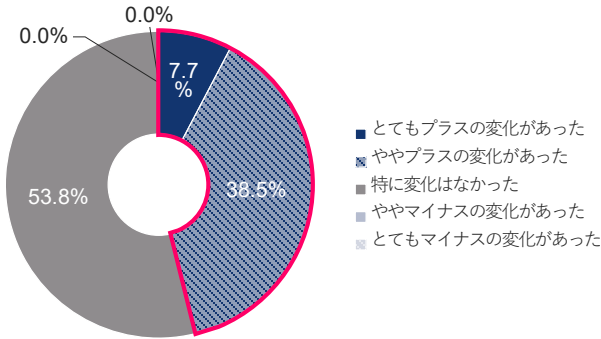
調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ ESG経営の効果:採用活動 (n=117)



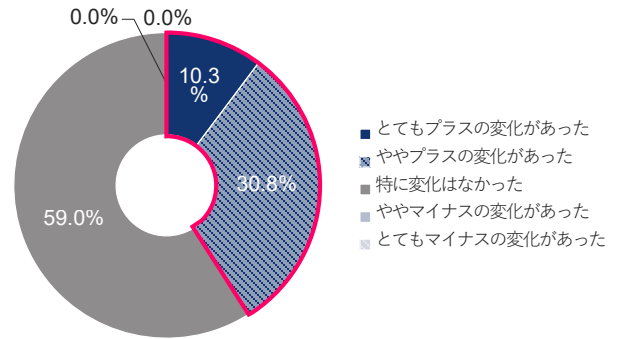
調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ ESG経営の効果:社内の労働環境 (n=117)



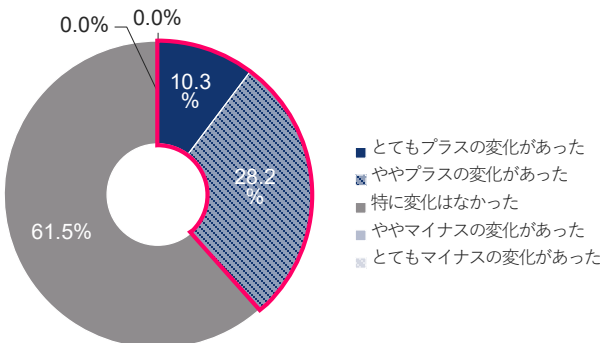
調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ ESG経営の効果:周囲からの評判 (n=117)



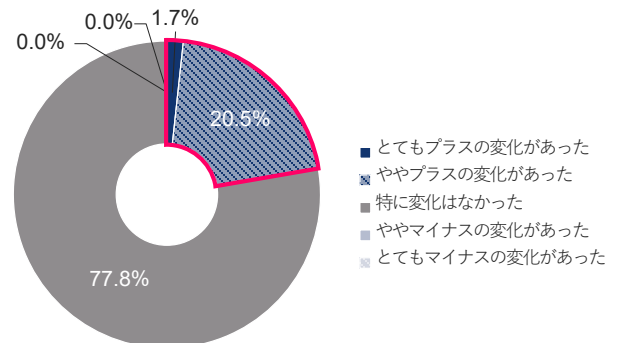
調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ ESG経営の効果:取引先からの評判 (n=117)



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ ESG経営の効果:求職者からの評判 (n=117)



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日 10

3. ESG 経営がもたらす 社外への影響

3. ESG経営がもたらす他社への影響

第3章では、ESG経営がもたらす他社への影響について調査した結果を報告する。なお、

第3章はESG経営を認知している企業に対しての調査結果となる。

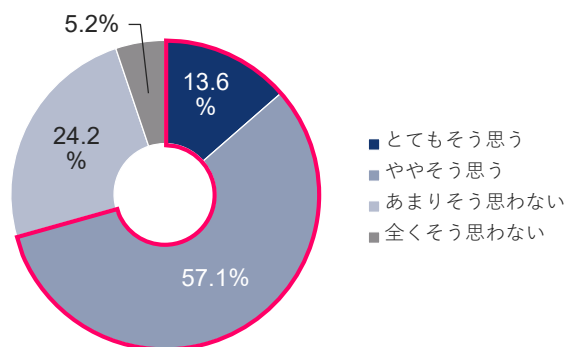
ESG経営がもたらす他社への影響について調査すべく、「ESG経営に取り組んでいる企業と取引をしたいと思うか」、「ESG経営に考慮した商材やサービスについて」の2つについて聞いた。

「ESG経営に取り組んでいる企業と取引をしたいと思うか」では、「とてもそう思う」が13.6%、「ややそう思う」が57.1%となり、合計で70.7%が肯定的な意見を示した。ESG経営に取り組む、それを示すことで外部企業との取引に好影響を与える可能性がある。今後、ESG経営の必要性が増すことは恐らく間違いないだろう。まだ取り組んでいない企業は一日でも早く

取り組むことを推奨したい。

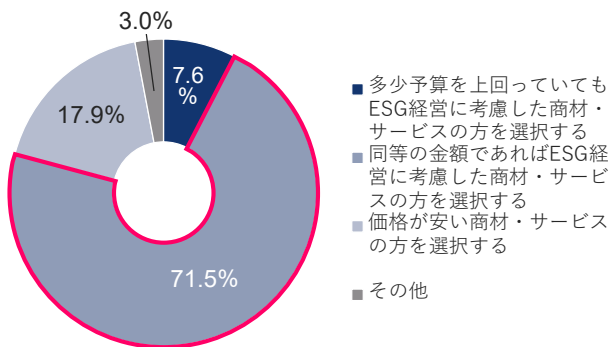
「ESG経営に考慮した商材やサービスについて」では、「同等の金額であればESG経営に考慮した商材・サービスの方を選択する」が73.5%と最も多い回答を占め、「多少予算を上回っていてもESG経営に考慮した商材・サービスの方を選択する」の7.8%を加えると8割以上となった。これは、ESG経営に考慮した商材、サービスが、そうではないものよりもマーケットから受け入れられることを表しているといえるだろう。この流れは今後もより一層強くなることが予想される。

■ ESG経営に取り組んでいる企業と取引をしたいと思うか (n=368)



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

■ ESG経営に考慮した商材やサービスについて (n=368)



調査期間：2024年9月9日～2024年10月11日

4. まとめ・あとがき

4. まとめ・あとがき

○ ESG経営は持続可能な経営を後押しする重要な取り組み

本レポートでは、中小企業がESG経営に取り組むうえでの課題や事業への影響、取り組み効果などについて、調査結果をもとに分析を行った。

まずはESG経営の課題については、3分野のうちEnvironment（環境）に関するものとして「CO2排出量の把握ができないこと」「ペーパーレスが実現できていないこと」が上位となった。双方とも、環境への取り組みとしては初期段階といえるものである。続くSocial（社会）では、「ストレスチェックできていないこと」「人事制度（評価・賃金・教育など）が無いこと」が上位となった。ここからは、労働者への配慮や育成など、組織として丁寧な対応を求められるものが遅れている、その実態が浮き彫りになった。

そして3つ目のGovernance（ガバナンス/企業統治）においては、「内部通報制度などの社内体制の構築」や「顧客管理、サービスの品質管理等ができていないこと」が上位であった。これらは持続可能な経営体制の構築に向けた基本的な取り組みともいえるものである。特に後者は対取引先、対顧客への配慮として欠かさないものである。トラブルを避けるためにも、優先的に取り組む必要があるだろう。

本レポートでは、ESG経営に取り組んでいる企業を中心に、ESG経営への対応の課題や効果、事業や社外への影響についての調査結果を報告しました。ESG経営に取り組んでいる企業の69.2%がESG経営によるプラスの影響を、約3割~4割の企業がESG経営の効果を実感していました。また、「ESG経営に取り組んでいる企業と取引をしたいと思うか」について70.7%が肯定的な意見を示し、ESG経営に取り組むことが選ば

こうした回答結果からわかるように、各項目は経営上とても重要な取り組みであるものの、必ずしも緊急性はないため、日々の経営環境では後回しにされてしまう傾向があると考えられる。

一方、ESG経営がもたらす影響に関する調査結果を見ると、例えば自社事業に対してはESG経営に取り組む企業の約4割が業績面でプラスの変化があったと回答し、取引先からの評判や社内の労働環境についても同様のプラスの変化が期待できることが分かった。ESG経営に取り組むことにより、各分野における自社内での効率化や改善が進むことはもちろん、外部評価や企業ブランディングへの効果が期待できる。これは持続可能な企業運営に不可欠な視点である。

このように、本調査結果からはESG経営が中小企業経営にとって有効な手段であること、さらには将来的に「選ばれる企業」になるためには重要な要素であることが示された。ESG経営への取り組みが進んでいない企業は、本調査結果を参考に取り組みを強化してみてはいかがだろうか。

れる企業につながることを示唆されています。しかし、取り組むうえでの課題も多く、まだ一步を踏み出せていない企業が多いことも事実です。ただ、大手企業だけでなく、中小企業もESG経営に取り組む必要性が今後も増していくことは確実と言えるでしょう。ESG経営に取り組む、経営基盤の確立や社会的評価の向上につながる中小企業が増えることを祈念いたします。

フォーバル
GDxリサーチ研究所
所長 平良 学

